

「第86回 法人企業統計研究会」の議事要旨

令和元年6月28日（金）

15:00～17:00

於：財務省4階西462会議室

季節調整について

◎資料1に基づき、「2019年4-6月期以降に使用するモデルの選択」及び「設備投資（無形固定資産（ソフトウェア）を含む）系列に対する季節調整法」について説明。

◎委員からの主な意見

（2019年4-6月期以降に使用するモデルの選択について）

- ・ 経常利益（非製造業）のケースでは、AICが最小のモデルが別にあるが、現行モデルとの平均乖離幅（SR）が設定基準値より大きいため採用されず、現行モデルが採用となっている。AICが最小のモデルは次数の特徴が異なっており、徐々に時系列的な特性が変化するため、将来的にモデルを変更すべきとなったときに数字が更に大きく乖離している可能性がある。平均乖離幅（SR）の上限値については、将来的に見直しを検討することも考えておいたほうがよい。
- ・ 過去に決定したダミー変数のウェイトが小さくなっていくことも考えられるため、ダミー変数のt値は今後も注視したほうがよい。

⇒ 従来からの基準により、経常利益（製造業）及び営業利益（非製造業）のモデルを変更する。

（設備投資（無形固定資産（ソフトウェア）を含む）系列に対する季節調整法について）

- ・ 「設備投資・総合」として合算した系列に直接季節調整を行う場合、2001年度以降のデータが対象となり、従来の「設備投資・無形除く」よりもデータの期間が短くなることに留意する必要がある。
- ・ 「設備投資・無形除く」と「設備投資・無形固定資産」のトレンドや季節変動パターンが異なるため、系列ごとに季節調整を行い、算出された値を合算したほうがよい。
- ・ 「設備投資・無形固定資産」の季節調整値を把握できるようにしておくほうがよい。

⇒ 「設備投資・無形除く」と「設備投資・無形固定資産」で系列ごとに季節調整を行い、算出された値を合算する方法とする。

その他

◎資料2に基づき、「母集団名簿と事業所母集団データベースとの乖離」について検討状況を報告。

◎委員からの主な意見

- ・ 例えば、同一法人でもビルフロアが違うだけで、マッチングの際に未照合になってしまう場合もある。マッチングの際に未照合となった法人の規模、業種、所在地等を整理できるとよい。
- ・ 法人番号公表サイトの法人から法人企業統計調査の対象とならない法人を除いた数を把握してみてはどうか。
- ・ 検討が進んでいることは評価したい。

⇒ 今後は、経済センサス基礎調査の結果等を基に、総務省と連携して検証することとしたい。

（以上）